

編集規定（2016年9月18日より適用）

- 1 機関誌「日本授業UD研究」は、一般社団法人日本授業UD学会の設立の趣旨にしたがって、我が国における授業のユニバーサルデザインに関する研究と教育に関する原著論文、実践報告、総説、資料および授業UDに関する内外の動向の最新情報等を研究論文として掲載する。その研究論文の種類は以下のとおり。

原著論文	これまでの研究論文には見られない、新しい視点がある研究論文。つまり、オリジナリティのある研究論文。
実践報告	特に、学校等における実践についての事例報告、指導法の検討、評価法の検討、学校研究としての取組、学校づくりやネットワークづくりなどをまとめた研究論文。
総説	ある研究分野についての動向をまとめた研究論文。先行文献研究、あるいはレビュー論文ともいう。その研究分野に関わる原著論文を漏れなく収集し、それらを要約した上で、課題の整理や全体的な評価を行うことを目的とする。それまでの研究成果をまとめた研究論文であるため、新しい事実や成果は含まれない。ただし、その研究分野の概略や現状を網羅して理解することに有用である。
資料	授業のユニバーサルデザイン等に関連する報告や資料を掲載した研究論文であり、その公表が本学会における研究の一層の充実や教育活動の改善等に資すると認められる研究論文。また、研究活動や実践状況の公表により、本学会に対する理解を深める報告や資料を掲載した研究論文。

なお、すべての論文は、①目的、②方法、③結果、④考察の形式で執筆され、明らかにすべきことが明確であることが要件となる。例えば、印象論や単なるエピソード報告等では、論文とは認められないことに留意が必要である。

①目的	目的：研究課題を設定し、何を証明したいのかを記述する。 背景：研究課題の解決や、実践経過を記述する上で必要な客観的な情報（例えば、事例対象の概要、学校等の規模や周辺環境、学級等における特性や問題）を記述する。その際、研究目的に関わりがない情報は記載する必要はない。
②方法	方法：どのような指導方法でアプローチする（した）のか、どのような手続きで調査を行ったのかを、他者が再現できるように記述する。 分析：どのような方法で効果等を測定し、分析し、証明するのかを記述する。
③結果	指導結果や調査結果を、数量的な分析、pre-post testの結果、何らかの変化の指標等を用いて記述する。
④考察	結果をもとに何が分かったかを記述する。仮説の成否を検討し、自ら設定した研究課題（目的）にどこまで接近できたかを論じる。また、客観的・論理的かつ冷静に調査・分析の結果を見つめ直し、研究目的に照らして積み残した課題について記述する。

学校等では、「指導を経ていくうちにうまくいった」など、意図が明確でない行為であっても、偶発的な結果が起こりうるが、それらを単にまとめることは研究論文とは言えない。指導や実践を始める前に研究計画を立案し、今後の再現可能性（どの教室等でも同様の手続きを採用すれば、同様の成果が得られること）を考慮しながら、研究を進めていかねばならない。

- 2 本機関誌の発行は、年間2号とする。

- 3 本機関誌の編集のために編集委員会および編集委員を置き、本学会の趣旨を踏まえるとともに、研究論文の適正な編集がなされるよう努める。
- 4 投稿者は、本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が認めたものはその限りではない。
- 5 投稿された研究論文は、編集委員が査読し、編集委員会として採否の決定を行うとともに、編集委員会は、原稿の修正を求めることができるものとする。また投稿された研究論文は返還しない。
- 6 本機関誌に掲載された研究論文等の著作権は、本学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
- 7 研究論文の内容については、十分に人権および倫理上の配慮がなされていなければならない。

投稿規定（2016年9月18日より適用）

- 1 本機関誌に原著論文、実践報告、総説、資料を連名で投稿する場合は、筆頭著者を本学会の会員としなければならない。
- 2 原稿は、A4 用紙 25 字×32 行（800 字）で、各ページに番号を付記し印刷されたものを提出することとする。原稿 2 枚が刷り上がり 1 ページに相当する。
- 3 原稿は図表を含め、本誌刷り上がり 10 ページ以内とする。なお、図、表及び写真は原則としてそれぞれ 1 点を刷り上がり 4 分の 1 ページ分とみなす。また、図表は、本文末に 1 枚ずつ別紙に添付すること。
- 4 術語以外は常用漢字、算用数字を用い、現代仮名遣いにしたが、外国人の名称などは原語を用いること。
- 5 原稿には、別紙として連絡票を添付すること。連絡票には、著者全員の氏名、所属、筆頭著者の郵便連絡先、電話番号及び電子メールアドレスを記載する。また、英文題名、英文著者名及び英文所属も記載する。
- 6 すべての投稿論文には、大要をほぼ把握できるように、400 字以内の和文要旨を付記すること。原著論文には、和文要旨のほかに英文要旨（300 語以内）を付記すること。また、3～5 語のキーワード（日本語、原著論文の場合はその英訳も必要）を付記すること。
- 7 文献を引用する場合は、本文中に引用した文献のみ（直接引用した文献に限定）を本文の後に筆頭著者のアルファベット順に並べて記載すること。引用の表示は下記の通りとする。
 - （1）雑誌などの逐次刊行物の名称は省略せずに記載する。
 - （2）著者名は、3 名以下の場合は全員、4 名以上の場合は 3 人目までを全員記載し、4 人目からは et al.（または「他」）とする。
 - （3）記載は、単行本の場合は、著者名（編集者名）、発行年、書名（外国語文献の場合はイタリック体）、発行社名、発行地（国内は不要）及びページの順とする。雑誌の場合は、氏名、発行年、論文題名、雑誌名、巻、ページの順とする。
 - （4）インターネット上の資料等の引用は可能な限り避けるよう努め、同一の資料が紙媒体でも存在する場合は紙媒体を出典とすること。ただし、インターネット上の情報を引用せざるを得ない場合は、その出典を明記するとともに、Web 上から削除された場合でも確認できるようコピーを保存し、本学会からの請求に速やかに提出できるようにすること。引用の表示は、著者名、公開年、資料題名、サイト名、URL 及び資料にアクセスした日の順とする。

〈文献の記載例〉

（1）単行本

桂聖，小貫悟（2014）：授業のユニバーサルデザイン入門 どの子も楽しく「わかる・できる」授業の作り方．東洋館出版社．

(2) 単行本所収論文

野村真一 (2014) : 「安心」「刺激」でつくる学級【学級継続編】. 桂聖, 川上康則, 村田辰明編著. 授業のユニバーサルデザインを目指す 「安心」「刺激」でつくる学級経営マニュアル すべての子どもを支える教師の1日. 東洋館出版社. Pp.34-39

(3) 雑誌内の一部

石塚謙二, 京極澄子, 廣瀬由美子 (2014) : 自治体の明確な方針と支援姿勢の上で授業を中核に据えて研究を深めていく. 総合教育技術. 平成 26 年 9 月号. 小学館. pp.34-37.

(4) 教育センター等の紀要や報告書等の文書

山形県教育センター (2013) : ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり. 山形県教育センター研究報告書第 80 号.

(5) 海外の単行本

Rose, D., Meyer, A., and Hitchcock, C. (2005). : *The Universally Designed Classroom: Accessible Curriculum and Digital Technologies*. Cambridge, MA: Harvard Education Press.

(6) 海外の学術論文

Proctor, C. P., Dalton, B., and Grisham, D. L. (2007) : *Scaffolding English language learners and struggling readers in a universal literacy environment with embedded strategy instruction and vocabulary support*. Journal of Literacy Research 39(1), 71–93

(7) インターネット上の資料

Center for Applied Special Technology (2011) : *What is Universal Design for Learning?* Retrieved October 7, 2011, from <http://www.cast.org/udl/index.html>

- 8 原稿は、同内容のコピー原稿 3 部を添えて提出すること。なお、原稿は原則として返還しない。
- 9 すべての原稿は、編集委員会による査読を行い、採否の決定を行う。その際、論文の構成や内容に修正を求めることがある。
- 10 本誌への掲載が決定した時点で、印字原稿および電子媒体（CD-R など）に記録した電子ファイルを送付すること。
- 11 著者校正は、原則として 1 度行う。
- 12 会員は、本誌に掲載する著作物の著作権ならびに版權を一般社団法人日本授業 UD 学会に移転するものとする。ただし、上記著作物を自ら使用、公表、引用する権利は会員がこれを本会と重ねて保持する。
- 13 会員は、別に定める学会誌倫理規定に遵守すること。
- 14 投稿先は、以下の通りとする。

一般社団法人 日本授業 UD 学会

〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-5-6 リソナ九段ビル 5 階 KS フロア